

- 2014/04/29 飛行機プレゼント，中国政府
- 2014/04/28 京都の米軍基地(40)：左右の「ニアミス」
- 2014/04/25 京都の米軍基地(39)：二重の危険にさらされる住民
- 2014/04/23 最高裁判事に8候補指名，司法会議
- 2014/04/21 南スーダン陸自交戦寸前，朝日記事の危険な含意
- 2014/04/20 京都の米軍基地(38)：駐留米軍を守る日本国警察
- 2014/04/16 京都の米軍基地(37)：丸裸の監視社会
- 2014/04/15 京都の米軍基地(36)：軍民混在の恐怖
- 2014/04/13 シェルマ判事，最高裁長官就任
- 2014/04/12 京都の米軍基地(35)：片刃の環境影響調査
- 2014/04/10 中国の広報戦略と戦略なき小国日本
- 2014/04/09 京都の米軍基地(34)：イルカ軍団，丹後半島近海来襲
- 2014/04/07 カモとイルカと伝統文化
- 2014/04/05 中国，HRW 非難のネパール政府に援護射撃
- 2014/04/04 ネパール政府，「チベット人虐待」HRW 報告に激怒
- 2014/04/03 HRW 報告書「中国の影の下で：ネパールにおけるチベット人虐待」

## 飛行機プレゼント，中国政府

さすが中国，太っ腹で，目の付け所がよい。ピカピカの新品飛行機を，ドローンと2機，国営「ネパール航空（NAC）」にプレゼントした。プラモデルではない。本物の小型旅客機だ。

1機目は，「新舟60（MA60）」。西安飛機製，58席。4月27日午後，この「中国からのギフト（Ekantipur, 4 Apr）」が着陸すると，トリブバン空港はお祭り騒ぎ，ヒンドゥー教聖者が祝福し，ラッパが高らかに吹き鳴らされ，「新舟」は歓迎アーチ放水で迎えられたようだ。もう1機の「ギフト」は，「運12e（Y12e）」。ハルビン飛機製，19席。年内には，贈呈される。

といっても，中国に下心がない訳ではない。2機はギフトだが，他の4機（新舟1機，運3機）は，長期低利ローンで売却する契約だ。これは，カナダなど先進諸国が使ってきた常套手段。それを，先進国に取って代わり，中国が使い始めたわけだ。



■新華社記事(4月28日)より

このところ，中国の進出は空でもめざましい。

「新舟60」使用国：アフガニスタン，イエメン，インドネシア，ウクライナ，エリトリア，カメルーン，カンボジア，キルギスタン，コンゴ，ザンビア，ジンバブエ，スリランカ，タジキスタン，トンガ，**ネパール**，

ボリビア、ラオス、ミャンマー、ペルー、フィリピン、ブルンジなど

「運 12e」使用国：インドネシア、エリトリア、イラン、ウガンダ、カンボジア、キリバス、ケニア、コンゴ、コロンビア、ザンビア、シェイシェル、スリランカ、タンザニア、トンガ、ナンビア、~~ネパール~~、バヌアツ、パラグアイ、パキスタン、ペルー、フィジー、マレーシア、ミャンマー、モーリタニア、モンゴル、ラオスなど

ほとんどが途上国。「新舟 60」は事故多発で安全性が問題にされているが、おそらく取引条件が先進国製よりも有利なのであろう。また「運 12e」は軍用にも便利。そうしたこともあり、途上国で多く利用されているのではないかと思われる。

中国は、おそらく商売半分、政治半分で、途上国を中心に航空機を売り込んでいるのだろう。中国の軍拡はすさまじく、軍用機を先導とした技術革新も進んでいるはず。遠からず、米・欧州による空の寡占は中国航空機産業により突き崩され、日本の空にも中国製航空機が飛び交うことになるだろう。ヒノマル航空機の出番なしか。

谷川昌幸(C)

2014/04/29 at 15:09 カテゴリー: [経済](#), [外交](#), [旅行](#), [中国](#) タグ: [航空産業](#), [観光](#), [NAC](#), [援助](#)

## 京都の米軍基地(40)：左右の「ニアミス」

4月20日の「米軍レーダー基地反対集会」では、市民団体・労組等と右翼諸団体との「ニアミス」があったらしい。新聞・ネット情報だけで正確には分らないが、右翼もかなりの街宣車を出し、「左翼」批判を繰り広げていたという。地元の人の多くは、おそらく初体験であり、驚き、恐怖を感じたであろう。

それでも右翼の行動や演説は、このところずいぶんスマートになってきた。20日の「反対集会」への反対街宣でも、米軍駐留には自分たちも反対だなどと語りかけていた。レトリックもうまい。

あと一步、右翼が上品になり「国粹主義（ナショナリズム）」の原点に立ち戻るなら、庶民の支持を一挙に拡大するにちがいない。[安倍首相](#)の指揮する「[美しい国](#)」合唱団への参加だ。

市民団体・労組等（右翼のいう「左翼」）にとっては、右翼との「ニアミス」や衝突よりも、むしろ街宣車から「美しい国」の合唱を、美しい歌声で流され、住民の心情的共感をゴツソリと持って行かれる方が致命的であろう。

美的・情緒的には、もともと保守派や右派の方がはるかに洗練されていた。そこにドスも利く右翼が参加し始めたら、市民派・護憲派・左翼などはひとたまりもあるまい。

すでにマスコミは、「美しい国」のセイレーンの声に引き寄せられ、合唱を始めた。たとえば、韓国船沈没事故報道。連日、テレビ・新聞が、この悲劇を「一流国家・日本」では起こりえないような、お粗末な「三流国家・韓国」の事故として、繰り返し繰り返し報道している。

たしかに、この客船運航や事故対応には多々問題があったようだが、日本のマスコミは、悲劇から謙虚に学ぶというよりは、むしろそれらを韓国がいかにダメな国家・国民か、日本がいかに優秀な国家・国民かを情緒的に訴えるための格好の話題として利用してきたといわざるをえない。

日本マスコミは、すでに「美しい国」の合唱に参加し始めた。いわゆる護憲派・市民派・左翼は、「美しい国」のセイレーンの声に抵抗しうるだろうか？ それとも、岩礁に乗り上げ、沈没してしまうのだろうか？

谷川昌幸(C)

2014/04/28 at 13:03 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [政治](#) タグ: [米軍基地](#), [韓国](#), [護憲派](#), [Xバンドレーダー](#), [右翼](#), [左翼](#), [京丹後](#)

## 京都の米軍基地(39)：二重の危険にさらされる住民

京都の住民は、米軍 X バンドレーダーの危険に加え、福井原発事故被曝の危険にもさらされている。

これを改めて思い知らされたのが、兵庫県発表(4月24日)の「放射性物質拡散シミュレーションの結果について」。福井原発事故による放射性物資の拡散がこれだけ遠くにまで及ぶとすれば、京丹後市(○印)はむしろのこと京都市(△印)ですら深刻な被曝の危険にさらされていることになる。

そこで不思議なのは、京丹後市や京都市・京都府が原発廃止に回らないばかりか、原発再稼働の場合の危険性を深刻に受け止め、地域住民避難の準備や訓練を十分にやっているようにも見えないこと。まあ、さもあらなん——京丹後市長や京都府知事には、はるか彼方の「国益」の方が大切なのだから。



■兵庫県シミュレーション



■舞鶴市避難計画／京都市対応計画



[参考資料]

- ・ 兵庫県「放射性物質拡散シミュレーションの結果について」2014年4月
- ・ 「京都市原子力発電所事故対応暫定計画」平成24年4月
- ・ 「舞鶴市原子力災害住民避難計画」平成25年3月
- ・ [福井原発関連記事](#)

谷川昌幸(C)

2014/04/25 at 20:37 カテゴリー: [平和](#), [人権](#) タグ: [米軍](#), [被曝](#), [Xバンドレーダー](#), [原発](#), [国益](#), [京丹後](#)

## 最高裁判事に8候補指名，司法会議

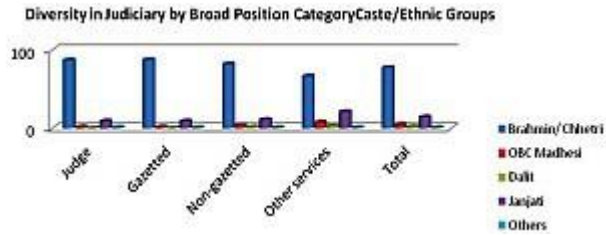
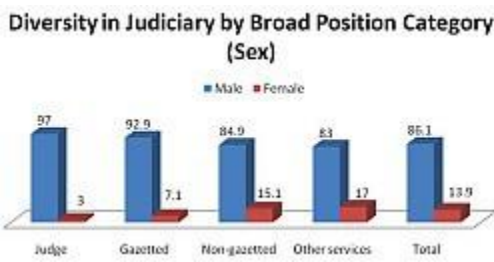
DP・シャルマ最高裁長官を長とする司法会議（न्यायपरिषद）は4月22日、暫定憲法第103条に基づき、空席となっていた最高裁判事に、上訴裁判所の所長6人、所長代行2人の計8判事を指名した。議会の審査を経て正式に任命される。

この最高裁判事指名については、弁護士会などがコネ人事だ、無能判事指名だ、などと批判をしている。そうした批判がどこまで妥当かは分からないが、少なくともいまの司法部が高位カースト寡占であることは間違いない。

法は、上部構造の重要部分であり歴史的に上位カーストのものだったからだろうが、いまや包摂民主主義の時代、司法部の民主化も避けられない。

折しもエネルギー省のラダ・ギャワリ大臣が、強姦には死刑を、と要求している。死刑採用の是非は別として、強姦事件を男性判事寡占裁判所で裁くことの不公平さは明白である。

包摂は司法部でこそ促進されなければならない。判事の半数を女性にすれば、女性がらみ事件の裁判も公平になるであろう。



■Diversity in Judiciary by Broad Position Category and Sex / Diversity in Judiciary by Broad Position Categories Caste/Ethnic Groups, in *Gender Equality and Social Inclusion Analysis of the Nepali Judiciary* (Research Report), May 2013

谷川昌幸(C)

2014/04/23 at 17:02 カテゴリー: [司法](#), [人権](#) タグ: [ジェンダー](#), [女性](#), [強姦](#), [最高裁](#), [死刑](#)

## 南スーダン陸自交戦寸前、朝日記事の危険な含意

朝日新聞(4月21日)が、南スーダン「UNMISS」派遣陸自隊長・井川賢一 1等陸佐の単独インタビューを掲載している。それによれば、井川隊長は、2014年1月5日、派遣(派兵)全隊員に武器・弾薬を携行させ、「各自あるいは部隊の判断で、正当防衛や緊急避難に該当する場合には撃て」と命令している。一応、「正当防衛」か「緊急避難」となっているが、避難民等を交えた混乱状態で戦闘が始まれば、そんなことの判断は事実上不可能だ。まさしく危機一髪、交戦寸前だったわけだ。



■UNMISS 派遣陸自 (防衛省 HP)

この事態について、朝日は、例のごとく、ヌエ的態度に終始している。見出しは次の通り。

- [1面] 陸自 PKO 隊長 射撃許可／南スーダン、銃撃戦迫り／1月、発砲に至らず
- [2面] PKO 変化、日本板挟み／国連、武器使用を容認／安倍政権 基準見直し検討  
記者はこう見た 法改正か撤退か国民的議論を
- [7面] 井川陸自隊長 一問一答「隊員死なせられない、最低限の自衛の必要、考えた」

一見、中立のようだが、朝日が、武器使用容認に傾いていることは、記事全体をみれば、そのニュアンスでわかる。たとえば、特ダネインタビューをとった三浦記者は、「記者はこう見た」において、こう書いている――



-----  
施設内で暮らす避難民は約3万人。守るのはルワンダなどの部隊だ。装備や隊員たちの熟練度は見るからに自衛隊の方が上回っている。それでも、自衛隊員たちは避難民を守るための武器使用が許されない。もし自衛隊がいながら、すぐそばで避難民の虐殺が起きた場合、国際世論は「仕方ない」と見なすだろうか。……

事実上の内戦状態にある南スーダンで、自衛隊はこれまで通りの構えで国際社会から期待された任務を遂行できるのか。現地取材した私の考えでは選択肢は二つしかない。憲法解釈の見直しやPKO協力法などの改正によって派遣部隊に避難民を守るための武器使用を認めるか、現地在内戦状態にあることを認め、「停戦」を前提とする現行法を順守して南スーダンから撤退するかのどちらかだ。（朝日新聞 4月21日）  
-----

井川記者は、「国民的議論を」と逃げているが、ここでは一言も、自衛隊の海外派遣(派兵)それ自体が違憲であることには触れていない。それもそのはず、朝日新聞は、そのような原則的な立場をきれいさっぱり放棄してしまい、いまでは「[地球貢献国家](#)」を社是としているからだ。

「地球貢献」のために自衛隊(軍隊)を派遣せよとラッパを吹いておきながら、イザとなったら、「国民的議論を」とは、あまりにもおめでたい。朝日記事からは、国連が武器使用を容認したのだから、法改正し自衛隊も武器使用できるようにせよ、という願望が透けて見えてくる。

つまり、こういうことだ。安倍首相の目玉政策、「[積極的平和貢献 \(Proactive Contribution to Peace\)](#)」を最も効果的に支援しているのは、産経でも読売でもなく、朝日だということ。朝日が、お上品に、「[美しい国](#)」の「[積極的平和貢献](#)」への道の露払いをし、準備万端整ったところで、それ行けドンドン、けばけばしいアナクロ復古調軍楽隊が行進するわけだ。

はなばなしなのはプカプカ、ドンドンだが、所詮それはそれだけのもの。常識も良識もある国民多数は、それだけでは浮かれ、ついて行ったりはしない。ところが、朝日が、もっともらしい理由をつけ、判断留保しているように見せつつ、お上品に、ジリジリと立ち位置を後退させていくと、国民の多くは、それが「いまの良識」かと思いきや、朝日とともに後退し、そのうち「日本を取り戻し」軍国主義に復古することもアナクロとは見えなくなってしまう。

対韓中ヘイトスピーチと同様、復古軍国主義も、同調を始めたなら、これほど爽快なことはあるまい。朝日は、そのための露払いをしているように見えてしかたない。思い違いならよいが、もしそうでないなら、朝日の責任は重大といわざるをえない。

[参照]

[スーダン派兵で権益確保：朝日社説の含意](#)

[スーダン銃弾供与問題と露払い朝日新聞](#)

[朝日社説の陸自スーダン派兵論\(再掲\)](#)

[良心的兵役拒否国家から地球貢献国家へ：朝日の変節](#)

[自称「右翼軍国主義者」の「積極的平和主義」：安倍首相の国連演説](#)

[自衛艦をソマリア沖に派遣せよ、朝日社説](#)

2014/04/21 at 19:07 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#), [憲法](#) タグ: [積極的平和](#), [自衛隊](#), [軍国主義](#), [PKO](#), [南スーダン](#), [国際貢献](#), [安倍晋三](#), [朝日新聞](#), [派兵](#)

## 京都の米軍基地(38)：駐留米軍を守る日本国警察

「[Xバンドレーダー基地建設反対！ 4・20 現地集会](#)」(宇川農業会館 4月20日午後)を、IWJ-Kyoto1の実況中継で見た(下記は中継画像)。参加者は約400人。

集会での発言は、いずれも正論であり、もっともだが、「内側の人々」(地元住民)にとっては、そうした反対論はいわば「外側の人々」(よそ者)の外からの声であり、それが地元住民の心を内から揺さぶり、強い共感を呼び起こすのは、実際には、かなり難しいであろう。

〔参照〕丸山眞男「現代における人間と政治」1961年

これとは対照的に、警察の大量動員、厳戒体制は、一見すぐそれと分かるものであり、地元の人々にリアルな圧倒的な威圧感、恐怖感を与えることに成功したにちがいない。駐留米軍を守るためであれば、日本政府は暴力装置たる「警察」の動員を躊躇しない。お上にたてつくと、警察に睨まれる、お上には抵抗できないと。[「Xバンドレーダー体制」](#)の片鱗が、早くも見え始めたといつてよいであろう。



■集会後、デモ行進開始(久僧) / 空自基地・米軍用地前



■袖志入口、後方は経ヶ岬 / 袖志村内

2014/04/20 at 19:28 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) タグ: [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [警察](#), [Xバンドレーダー](#), [京丹後](#)

## 京都の米軍基地(37)：丸裸の監視社会

グーグル写真を見てビックリ、また一段と精細になった。こんなものが見られるなら、わざわざ丹後の秘境に行くまでもない。論より証拠――



■空自分屯基地入り口／米軍用地／空自レーダー



■尾和の国道沿い民家／同左，拡大／尾和村内バス停／右壁面，拡大



■袖志の商店と民家／同左，民家前拡大／久僧：共産党・自衛隊・自民党共生ポスター



■中浜民家／同左，拡大／袖志を無断撮影中のグーグル車

これらは、はるかに鮮明なグーグル画像を、素人が無料映像ソフトで縮小したもの。それでも、十分に判別できる。一応、人の顔や文字にはボカシを入れているが、申し訳程度、アリバイづくりにすぎず、誰が、どこで、何をしていたか、丸見え。丸裸に近いといってよい。

たとえば、袖志の女性や中浜の男性。あるいは、尾和の国道178号線沿い民家やバス停付近の民家、久僧の共産党・自衛隊・自民党共生ポスター掲示など。ポスターは見てもらうためだからよいとしても、自宅敷地内の無防備女性や男性を一方的に無断撮影し——その意味では盗撮し——世界にばらまき、永久保存・利用を可能とし、それでもって金儲けをしている。こんなことを、本当に、してもよいのだろうか？



しかし、それはそれとして、いま確認すべきは、一私企業ですら、ここまで自在にプライバシーを暴き、保存・利用できるということ。とすれば、米軍やCIAなど、あるいは自衛隊や公安機関などは、その何倍も強力な住民調査・監視技術を持ち、おそらくすでに何らかの形で利用していると想定せざるをえないであろう。

地元住民や京丹後に入出入りするよそ者は、すべてどこかでチェックされ、経歴を照合され、分類・保存され、ひょっとするとケータイ・スマホ情報も傍受され、監視されている可能性がある。まだどう利用されているかは分からないが、すでに山間部の峠などに、監視カメラがいくつか、さりげなく設置されている。

監視社会の恐ろしさは、実際には自分は監視されていないくても、監視されているかもしれないと思わされるところにある。丹後は、間違いなく万人監視の「Xバンドレーダー体制」に向かうであろう。

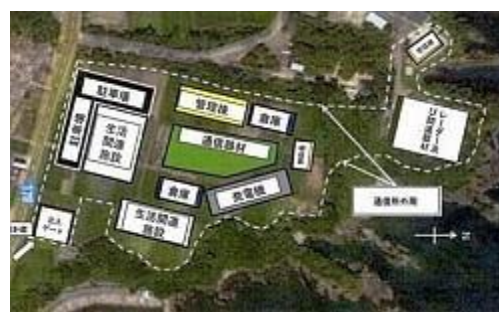
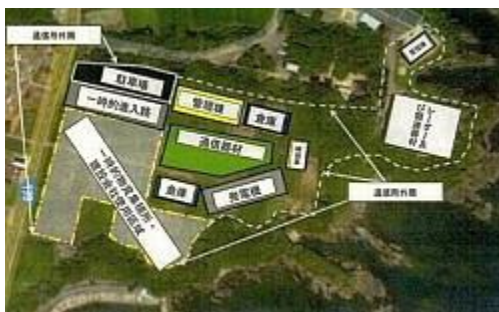
#### ▼[京都の米軍基地\(13\)](#)：「Xバンドレーダー体制」の危険性

谷川昌幸(C)

2014/04/16 at 12:04 カテゴリー：[社会](#)、[軍事](#)、[平和](#)、[人権](#) タグ：[プライバシー](#)、[監視社会](#)、[米軍基地](#)、[経ヶ岬](#)、[Xバンドレーダー](#)、[京丹後](#)

## 京都の米軍基地(36)：軍民混在の恐怖

防衛省は4月13日、袖志での説明会において、米軍基地の5月着工、Xバンドレーダーの12月末運用開始の予定を一方的に言い渡した（京都新聞4月14日）。



■ 第1期工事完成後／第2期工事完成後

地元住民にとって、最大の脅威は、北朝鮮でも中国でもなく、米国軍人・軍属だ。むしろ、軍人や軍属個々人が悪いのではない。彼らも、地元住民と同様、本来、よき息子であり、よき父や夫であり、そしてよき市民だ。しかしながら、彼らは米国益のため極東の島国の、英語のまったく通じない辺境地に派兵され、連日、最前線の緊張の中に置かれる。個人として善良で優しい人であればあるほど、この緊張に耐えられず、逸脱行動に追いやられやすい。彼らも同情すべき犠牲者なのだ。

米国の下請け、日本国防衛省の説明によれば、5月から米軍人・軍属が京丹後に派兵され、峰山町内のホテルに駐留する。たぶん、あのホテルであろう。そうなれば、そのホテル周辺はむしろのこと、市内——といっても田舎の小さな町にすぎないが——の商店や飲食店や遊技場でも、丹後の人々は前線派兵の米軍人・軍属と日常的に接触することになる。

繰り返すが、米軍人・軍属は、地元の人々と同様、本来は正直で善良な人々だ。しかし、かつて戦争が米国人を「鬼畜」（大日本帝国プロパガンダ）としたように、僻地前線派兵の緊張が、彼らに異常なストレスを与え、彼らに異常行動をとらせる恐れは多分にある。前線派兵の軍とは、そうしたものだ。

それなのに、京丹後市議会は、あまりに脳天気。補助事業の皮算用で色めき立っている。

**大村副市長**：「地域振興で再編か、民生かということですが、御存じのように〔基地〕再編交付金は100%、民生安定事業は5割、平均5割ということですので、丹後町ですから、5割の補助金の裏には過疎債が使えるということですので、非常に有利な財源にはなると思います。ですから、地域として考えるならば、宇川地域、網野町地域に広げるかどうか、よくわかりませんが、民生安定の事業を中心に使われていくほうがいいのかなと。それから、民生安定にいく、なじまないような部分については再編交付金を使っていくと。再編交付金はやはり市全体での利用と言いますか、使用も考えるべきだというふうに思っています。」（基地対策調査特別委員会、2014年2月5日）

丹後市議会は、こんな目先の小利分捕り合戦をされていてよいのか？ 地域が米軍最前線基地にされ、最新鋭レーダーを持ち込まれれば、当然、それを守るためのハードとソフトが必要になる。レーダー基地防衛のためのミサイル等の持込、工作船や破壊工作に備えた防衛部隊の強化、そして地域の防諜・治安強化など。

市議会が国家下請け機関なら、それも致し方ない。が、もしそうでないなら、いまずべきは地域住民の平和と安全のため、Xバンドレーダー基地受入を根本から再検討し、その撤回を申し入れることではないのか。

[参照]

[京丹後市エクスバンドレーダー配備に関する説明会—市長挨拶 2013-08-07](#)

[京丹後市エクスバンドレーダー配備に関する説明会—経緯 2013-08-07](#)

[京丹後市エクスバンドレーダー配備に関する説明会—質疑 2013-08-07](#)

[京丹後米軍基地地元説明会\(宇川\) 防衛省（榎賀氏）2014.04.16](#)

[京丹後米軍基地地元説明会\(宇川\) 質問&意見 2014.04.16](#)

谷川昌幸(C)

2014/04/15 at 14:30 カテゴリー: [軍事](#), [平和](#) タグ: [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [防諜](#), [軍属](#), [Xバンドレーダー](#), [地方自治](#), [治安](#), [京丹後](#)

## シャルマ判事，最高裁長官就任

ダモダル・プラサド・シャルマ（だもどるらすだ しるま）判事が4月11日、第22代最高裁長官（सर्वोच्च अदालतको प्रधान न्यायाधिश）に就任した。任期は、停年となる今年10月まで。

シャルマ判事は、憲法会議（संबैधानिक परिषद）では全会一致で長官に推薦されたが、議会の特別聴取委員会では、指導力不足、職権乱用の疑い、コネ人事の疑いなどの理由で反対があり、2／3の多数決による承認となった(Himalayan, 1&2 Apr; Republica & Ekantipur, 1 Apr)。略歴は次の通り。

- 1949 カトマンズに生まれる。現在 65 歳
- 1975 郡裁判所判事
- 1991 上訴裁判所判事
- 2009 上訴裁判所所長
- 2005 最高裁判事
- 2013 最高裁長官代行(3月より) [レグミ長官が在職のまま選挙管理内閣首相となったため]
- 2014 最高裁長官就任(4月11日)

シャルマ長官の能力は、新聞報道だけではよく分からないが、しかし、任期が10月までとは、あまりにも短すぎる。司法部は保守的であり、年功が慣行となっているそうだが、この激変期、長官選任方法も見直すことが必要ではないだろうか。



谷川昌幸(C)

2014/04/13 at 19:13 カテゴリー: [司法](#) タグ: [最高裁判所](#)

## 京都の米軍基地(35) : 片刃の環境影響調査

Xバンドレーダー設置前の環境影響調査は、よくて両刃の剣だ。たしかに、設置前の電磁界強度、騒音、水質などを調査しておけば、設置後、もし問題が起これば、調査結果を根拠に是正を要求できる。しかし、実際には、そんなことは、まずない。原発などと同様、長期的影響などは無視し、受忍限度を高く設定しているからだ。

### ▼[電磁界強度調査](#)・[水質調査](#)／[騒音調査](#)

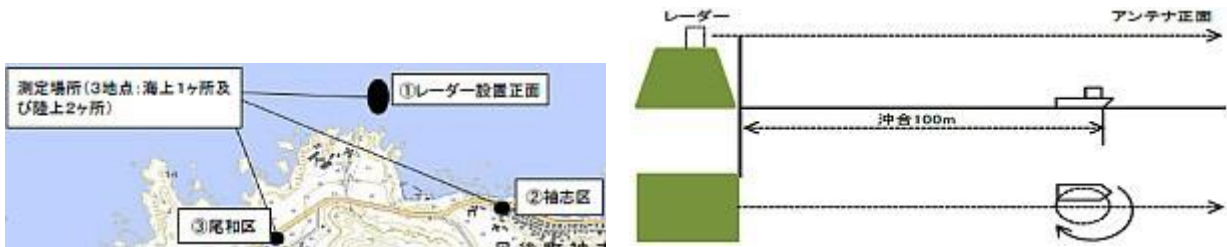
これに対し、調査の政治目的は、はっきりしている。地元要望を聞き、調査をしましたよ、というアリバイづくりだ。官僚制にとって、「法による支配」ないし「手続遵守」は、鉄則だ。が、これは主権者たる人民＝住民が厳しい監視をおこたると、たちまち、所定の手続きさえ踏めば、それでよい、という官僚主義に転化する。

環境影響調査は、まさしくその官僚主義的「手続遵守」そのものであり、Xバンドレーダー設置のためのアリバイづくりといわざるをえない。

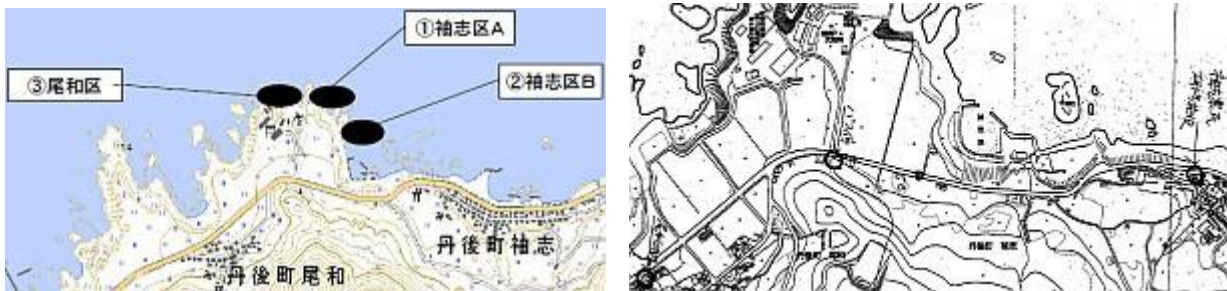
その証拠に、電磁界強度調査は、三菱電機が実施する。三菱系は、米産軍共同体の下請けにして、日本産軍官共同体のドン。その一角を占める日本有数の軍事企業、三菱電機に、公平な調査を期待するのは、あまりにもおめでたい話だ。

もしかりに住民側が、独自に、研究者や専門家に調査を依頼しようとしても、政府や京都府や京丹後市は、調査費負担はむろんのこと、調査そのものさえ決して許可しないだろう。特にXバンドレーダー設置後は、いうまでもなく、それは「特別防衛秘密」ないし「防衛秘密」であろうし、おそらく何らかの形で「特定秘密」に指定されるであろうからである。

もしそうであるなら、お上の環境影響調査は、両刃にすらなりえない。むしろ、それは、反対運動を切って捨てるための、片刃の剣でしかないのではないか？



■電磁界強度調査(3月19日)三菱電機



■水質調査(3月19日)ユニチカ／騒音調査(2月25日)防衛省

[参照] [防衛省→三菱電機144人天下り](#)

「水増し請求の背景に 兵器製造で癒着 中距離地对空誘導ミサイルや情報収集衛星(スパイ衛星)など、航空宇宙・防衛事業をめぐって防衛省などへの経費の水増し請求が問題になっている三菱電機への「天下り」が、防衛省からは「陸上幕僚長」はじめ144人にのぼることが明らかになりました。防衛省以外の国家公務員の天下りは3人。軍事産業2位の三菱電機と防衛省との特殊な関係が浮かび上がりました。」(しんぶん赤旗 2012年3月19日)



## 中国の広報戦略と戦略なき小国日本

毎日新聞「隣人:日中韓 孤立する日本／7 報道支配、中国外にも」（4月10日）は、刺激的な警世的記事だ。中国政府が、国策として、6千億円（2009年頃）の巨費を投入し、世界世論形成に努力しているというのだ。李長春・政治局常務委員（宣伝担当）は2008年1月、中国中央テレビ（CCTV）で、こう演説した。

「外国語チャンネルの開設を加速し、我々の映像、声をさらに世界各地に波及させよ。国内外の重大事件の報道で、世論の主導権を勝ち取れ」（毎日4月10日）

毎日記事は、オーストラリア、アメリカ、ケニアの事例を、「そこまでやるのか！」とビックリ仰天するほど興味深い実話も交え、紹介している。いかにも中国的で、稚拙とも、乱暴とも言えるが、そこは大国、小さなことは気にしていないようだ。要は、世界世論の米欧支配を打破し、中国の声を広めることが目標なのだ。

ネパールでの「China Daily（中国日報）」宣伝も、この中国政府の世界広報戦略の一環とみるべきであろう。すでに幾度か紹介したが、[「ネパリタイムズ」の「中国日報+ランタン無料進呈」キャンペーン](#)は、その率直さに、見るたびにほほえまされるが、戦略的には的確的を射ている。無料進呈 LED ランタンで「中国日報」を読めば、最先端の光により大いに啓蒙(lighten up)されるというわけだ。小さなことを気にせず、大国的な大らかさで、時間をかけ、目的を達成することを目指している。

これに対し日本は、ひがみっばい小国根性丸出し。国土25倍、人口11倍の超大国・中国に対し、経済規模など日本の国力が相対的に低下するのは、必然であり自然なことだ。その宿命を見据えた上で、日本は、量的にではなく質的に、自国の価値を高め、小粒でもピリリと辛い小国としての存在意義を世界に向け発信し、世界社会において「名誉ある地位」（憲法前文）を占める努力をすべきだ。

それなのに、相対的小国化の宿命を直視する勇気を持たず、隣国の発展に嫉妬し、ひがみ、内弁慶になり、「日本を取り戻す」などと空威張りをする。本気で日本を取り戻せば、よくて極東の貧困後進国、悪くすると軍国全体主義国に逆戻りするだけではないか。

■中国のネパール啓蒙作戦(ネパリタイムズ 2013年12月13-19日号)



今日の「ネパリタイムズ」にも、「China Daily」の宣伝はでている。そこをクリックすると、中国日報ホームページが表示される。その最上段には、ちゃんと、日本批判記事が出ている。日本には、「日本を取り戻す」ためのアナクロ竹槍戦術はあっても、このような大きな世界戦略はない。



US urged to restrain Japan  
Beijing warned Washington on Tuesday to "stay vigilant" about Japan and not to be...

■ネパリタイムズ  
広告⇒China Daily  
トップ (4月10日)



■日本向け広告。戦略的な中印首相握手写真掲載 (4月10日)。

#### ▼中国のネパール進出とアメリカ国益

谷川昌幸(C)

2014/04/10 at 18:36 カテゴリー: [外交](#), [情報IT](#), [中国](#) タグ: [大国](#), [小国](#), [情報戦略](#), [戦略](#), [世界世論](#)

## 京都の米軍基地(34)：イルカ軍団，丹後半島近海来襲

イルカが、500頭の大群をなし、京丹後市の丹後半島近海を遊弋しているのが目撃された(4月2日付読売ほか)。いうまでもなく、米軍Xバンドレーダー部隊の先遣隊だ。要厳戒！ [\[イルカ500頭回遊\(NNN\)\]](#)

### 1. 経ヶ岬をイルカ聖域に

米欧イルカ人道主義派によれば、イルカは知能が高く、人間の考えや気持ちをよく察知し行動できるそうだ。とすれば、イルカ社会では、ケネディ駐日大使がイルカの権利擁護に尽力し、また丹後半島にXバンドレーダーを設置する計画であることも、すでに知れ渡っているにちがいない。

そこで、イルカたちは考えたのだ。丹後半島近海に行けば、イルカの生存権は守られる。万が一、地元漁民が攻撃を仕掛けてきても、すぐケネディ大使らが非難の声をあげ、イルカ人道派も押しかけ、イルカを守ってくれるはずだ、と。

しかも、丹後半島周辺海域は、ブリなど高級魚の好漁場。イルカのエサとなる魚はたくさんいる——他の魚類はバカだから喰われて当然、生存権はない。思う存分食べ、イルカ仲間を増やし、丹後半島沖をイルカ聖域とすることも夢ではない。

## 2. イルカの米国益貢献

これは大恩ある米国に報いることにもなる。イルカは大量の魚を食う。しばらくすると丹後半島近海の魚は激減する。そうなれば、漁師たちは漁ができず、廃業に追い込まれる。こうして漁師がいなくなれば、電磁波やら温排水といったXバンドレーダー反対の理由もなくなる。

さらにまた、日本漁業が衰退すれば、日本人の食習慣が肉食中心に変化し、米国産の牛肉や畜産用飼料の対日輸出が増加し、米国益に大きく貢献する。したがって、イルカ人道主義派に保護され、丹後半島近海の魚を食い尽くすことは、米国の大恩に報いることになるのだ。

## 3. 壱岐イルカ事件の教訓

まさかと思われる方は、「[壱岐イルカ事件\(1980\)](#)」を思い出していただきたい。イルカ被害に耐えかねた壱岐漁民が捕獲のためイルカを追い込んでいた網を、イルカ人道主義者の米国人が切断し、数百頭を逃がした。彼は逮捕・起訴されたが、執行猶予が付き、実質的にはイルカ人道主義が勝利した。その後、壱岐ではイルカ捕獲は断念され、水族館で「人道的」に飼育されるようにさえなった。

壱岐で勝利したイルカ軍団は、北上し、今度は丹後半島近海を攻撃目標と定めた(\*)。ここで心すべきは、イルカ軍団が丹後漁民を攻撃し始めても、米国政府は絶対に漁民は守らないということ。米国政府は、イルカ人道主義を国益のため利用しており、漁民の味方など端から念頭にないからだ。(\* イルカ軍団は、3月下旬には宮津湾内、4月9日には伊根湾内に深く侵入し魚を追っているのが目撃された。京都新聞 4月10日)

## 4. イルカ人道主義と米軍国主義との共犯関係

丹後半島近海にイルカ軍団が布陣し、経ヶ岬に米軍Xバンドレーダー基地ができれば、どうなるか？

イルカは、ブリなど高級魚を食い散らす。たまたま漁民がイルカ駆除を始めようものなら、たちまちイルカ人道主義者がやってきて、彼らを攻撃する。そして、ケネディ大使だけでなく、おそらく駐留米軍人・軍属らも、何らかの形で漁民攻撃に加勢するだろう。イルカ人道主義は、米軍国主義と共犯関係にあるのだ。

## 5. アングロサクソン偽善のしたたかさ

ちょっと冷静に考えれば、イルカ人道主義がいかにトンドモナイ偽善であり屁理屈であるかは明白だが、その無茶苦茶、無理難題をまるで「正義」であるかのように筋道を立て、巧妙に世界を丸め込んでしまうのが、西洋、とくにアングロサクソンの凄いところだ。この卓越した偽善能力は、彼ら自身も認めている周知の事実だ。たとえば、バーナード・ショーは、『運命の人』において、ナポレオンに次のように語らせている。

▼BERNARD SHAW, THE MAN OF DESTINY, 1898

**NAPOLEON.** That accounts for it. The English are a nation of shopkeepers. Now I understand why you've beaten me.

**LADY.** Oh, I haven't beaten you. And I'm not English.

**NAPOLEON.** Yes, you are——English to the backbone. Listen to me: I will explain the English to you.

**LADY** (eagerly). Do. [...]

**NAPOLEON.** No, because the English are a race apart. No Englishman is too low to have scruples: no Englishman is high enough to be free from their tyranny. But every Englishman is born with a certain miraculous power that makes him master of the world. When he wants a thing, he never

tells himself that he wants it. He waits patiently until there comes into his mind, no one knows how, a burning conviction that it is his moral and religious duty to conquer those who have got the thing he wants. Then he becomes irresistible. Like the aristocrat, he does what pleases him and grabs what he wants: like the shopkeeper, he pursues his purpose with the industry and steadfastness that come from strong religious conviction and deep sense of moral responsibility. He is never at a loss for an effective moral attitude. As the great champion of freedom and national independence, he conquers and annexes half the world, and calls it Colonization. When he wants a new market for his adulterated Manchester goods, he sends a missionary to teach the natives the gospel of peace. The natives kill the missionary: he flies to arms in defence of Christianity; fights for it; conquers for it; and takes the market as a reward from heaven. In defence of his island shores, he puts a chaplain on board his ship; nails a flag with a cross on it to his top-gallant mast; and sails to the ends of the earth, sinking, burning and destroying all who dispute the empire of the seas with him. He boasts that a slave is free the moment his foot touches British soil; and he sells the children of his poor at six years of age to work under the lash in his factories for sixteen hours a day. He makes two revolutions, and then declares war on our one in the name of law and order. There is nothing so bad or so good that you will not find Englishmen doing it; but you will never find an Englishman in the wrong. He does everything on principle. He fights you on patriotic principles; he robs you on business principles; he enslaves you on imperial principles; he bullies you on manly principles; he supports his king on loyal principles, and cuts off his king's head on republican principles. His watchword is always duty; and he never forgets that the nation which lets its duty get on the opposite side to its interest is lost. He——

#### ▼近衛文麿による要旨引用（『英米本位の平和を排す』1918）

曾てバーナード・ショウは其「運命と人」の中に於てナポレオンの口を藉りて英国精神を批評せしめて曰く「英国人は自己の欲望を表すに当り道徳的宗教的感情を以てする事に妙を得たり。しかも自己の野心を神聖化して発表したる上は何処迄も其目的を貫徹するの決断力を有す。強盗掠奪を敢てしながらいかなる場合にも道徳的口実を失わず、自由と独立を宣伝しながら殖民地の名の下に天下の半を割いて其利益を壟断しつつあり」と。ショウの言う所稍奇矯に過ぐと雖、英国殖民史を読む者は此言の少くも半面の真理を穿てるものなることを首肯すべし。

このショーの自国民認識は、歴史的事実に適合しており、正確無比である。さすが、イギリス人！（アイルランド出身だから、なおさらかもしれないが。）これに比べたら、私のイルカ人道主義批判など、大甘、足下にも及ばない。アングロサクソン政治の凄さは、平気で肉を切らせ、結局は、相手の骨を断ち、シャブリ尽くすところにある。これにどう対抗すべきか？

#### 6. 偽善には偽善をもって

これは難しい。偽善はケシカランといって偽善との真っ正面からの闘いから降りてしまい、本音の「日本人本位」に逃げ込み、独善に陥り、「日本人の正当なる生存権」のためには戦いも辞さずなどと空威張りし始めたら、負けである。



政治では、建前や偽善は、独善に陥りやすい本音や赤誠よりも大切だ。アングロサクソン型偽善には、それ以上の普遍性をもつように**見える**建前、それ以上にもっともらしく**見える**偽善でもって対抗し、世界世論の支持を獲得する以外に勝利する方法はない。

イルカ問題も同じこと。イルカ人道主義が偽善であることは明白だが、これに感情的に反発し、日本特殊論や「日本人本位」に逃げ込み、立てこもってしまったら、丹後半島とその近海は、イルカ軍団と米軍基地に席卷されてしまうだろう。すでに丹後半島には、Xバンドレーダーだけでなく、オスプレーなど、他の米軍最新兵器をも配備する計画があると報道され始めている。

この1月、グアムに行ってきた。広大な米軍基地を背景にイルカ・ウオッチ！ 楽しかった。



■ソレダッド砦（スペイン統治時代）／ウマタック湾とサン・ディオニシオ教会（マゼラン上陸・略奪地）。砦からはイルカの群れが湾内にまで入り込んでいるのが見えた。平地、良港は米軍が占領・使用。写真撮影：2014-01-30

谷川昌幸(C)

2014/04/09 at 14:19 カテゴリー: [経済](#), [軍事](#), [外交](#), [文化](#) タグ: [イルカ](#), [グアム](#), [ケネディ大使](#), [Bernard Shaw](#), [独善](#), [米軍基地](#), [経ヶ岬](#), [軍国主義](#), [近衛文麿](#), [Xバンドレーダー](#), [偽善](#), [国益](#), [壱岐](#), [建前](#), [本音](#), [京丹後](#)

## カモとイルカと伝統文化

4月4日、阪神間の桜の名所、夙川公園に行ってきた。満開！ 花吹雪が舞い、夙川はまるで桜花のせせらぎ、花筏。

その桜花の清流に、つがいのカモと一羽のサギが来ていた。せせらぎで桜花と戯れ、時折、エサをついばんでいる。悠々泰然、人を恐れることはほとんどない。この鳥・人共生関係は、調和的な「第二の自然」であり、地域の伝統「文化」だ。

この「文化」の中でカモやサギは意味づけられており、もし誰かが無警戒のカモを捕らえ、カモ鍋にして食べてしまったら、なんたる野蛮、残酷と非難されるだろう。それは地域の伝統「文化」の否定であり、道徳的に許されない。

しかし、そのような文化がなく、カモは狩猟の対象とされているところでは、カモを捕まえ食べたとしても、誰もそれを非難したりはしない。もしかりに生息数減少で保護が必要なら、そう説明し捕獲制限を話し合えばよいだけのことだ。



■夙川公園 4月4日

この自明の理がわからないフリをしているのが、ケネディ駐日大使ら、米欧イルカ人道主義派。イルカ漁が「非人道的 (inhumane)」とは、自文化絶対のタメにする妄論に他ならない。

ネパールにはサルを捕獲して食べている少数民族がいる。ヒトと同じ霊長類だから、サル猟は「非人道的」と言うと言えないことはないが、「文化」を尊重するネパールの人々は決してそんな「非文化的」なことを言いはしない。私たち日本人も言わない。もしかりに助言を求められたら、近年、生息数が減ってきているので、サル猟はそろそろ見直した方がよいのではないですか、と科学的に冷静に答えるであろう。

イルカ漁を「非人道的」と非難できないのは、牛屠殺を「非人道的」と非難できないのと同じこと。牛屠殺であれ、特定文化の中で、許容されているにすぎない。ウソだと思えば、インドに行き、公然と牛を殺してみよ。

イルカ漁も、種保護のため制限が必要となるかもしれない。しかし、それはそれだけのこと。決して「非人道的」などといった普遍的価値判断の問題ではない。むしろ、ケネディ大使らは、そんなことは、十分わかっている。わかっているが、わからないフリをして無茶を言う。なぜか？

いうまでもなく、政治が目的。イルカは票になる。米欧は政治力で世界を征服した。政治的に有効と思えば何でもやる。たとえば、ベトナム戦争。米国は、肥沃なベトナムの山野・田園に有毒枯葉剤を大量散布し、無数の美しく愛らしい動植物を虐殺した。被害は「ヒト」にもおよび、いまなお多くの「人」が苦しめられている。もしイルカ漁が「非人道的」なら、これはいったい何と表現すればよいのか？



■夙川公園 4月4日

[参照]

[イルカ漁非難、その反キリスト教的含意と政治的戦略性](#)  
[ケネディ大使、ジュゴン保護を！](#)

谷川昌幸(C)

## 中国，HRW 非難のネパール政府に援護射撃

新華ニュースが、「ネパール政府『中国の圧力でチベット人を抑圧』という指摘に反論」という記事を掲載している（日本語版 4月4日）。趣旨明快。HRW（ヒューマンライツウォッチ）報告書を非難したネパール政府の全面擁護，援護射撃だ。

先述のように，HRW やその背後の米欧が，カネも出さずにネパール政府のチベット難民処遇に対する批判を続けるなら，ネパール政府が，おしみなくカネと人を出し，中国招待・留学の大判振る舞いを始めた中国にますます接近することは明白だ。むろん HRW や米欧は外交巧者であり，そんなことは百も承知の上でやっているのだろうが，中国もまた勝るとも劣らない外交巧者，結果がどうなるか予測は難しい。

いずれにせよ，当事者たるネパール政府は，難しい立場にある。理念からいえば，まずは難民個人の人権だし，これは正論だが，他方では，それは世界搾取で優位にある—と見られている—米欧だからこそ言えることだ。

チベット難民処遇に関し正義は HRW や米欧の側にある。いずれ正義が勝利し，チベット難民の人権は回復されるだろうし，むろんそうあるべきだ。が，しかし……。いまのネパールからすれば，おそらく

### 正義は力，力は正義！ Right is Might, Might is Right!

と受け止められているだろう。HRW や米欧の方が洗練されてはいるが，強者の権力的支配という点では，中国のやり方と本質的に変わりはない。文句があるなら，弱小国搾取，弱者人民搾取を撤廃してから，ネパール政府に人権尊重を要請せよ。おそらく，できることなら，ネパールはそう叫びたいにちがいない。

自省なき正義や人権の一方的主張は，どこか胡散臭い。

▼情緒動員競争：HRW 報告書（左）と新華ニュース（右2枚）



⇔

[参照] [HRW 報告書「中国の影の下で: ネパールにおけるチベット人虐待」](#)，[ネパール政府](#)，「[チベット人虐待」HRW 報告に激怒](#)

谷川昌幸(C)

## ネパール政府、「チベット人虐待」HRW 報告に激怒

ネパール政府が、[HRW 報告書「中国の影の下で: ネパールにおけるチベット人虐待」](#)に激怒している。The Himalayan(3 Apr)によれば、外務省は次のような声明を発表した。

HRW 報告書は、「根拠なき悪意に満ちた挑発」であり、ネ中友好関係の破壊が目的だ。人権の名をかたる「余計な政治化」であり、このような愚劣なことは二度とすべきではない。

「ネパールは独立主権国家であり、国際礼譲を受けてしかるべきだ。ネパールは自ら選択して内外政策を決定し、遂行する。」

ネパールは、1951年の「難民の地位に関する条約」にも1967年の「難民の地位に関する議定書」にも署名していない。「しかしながら、ネパールは、自国の社会経済状況からしてこれ以上の難民増加負担には耐えられないとしても、これまで難民を人道的に処遇してきたし、これからもそう処遇するであろう。」

(注：国連との間にチベット難民安全通過の「紳士協定」はあるとされている。)

「HRW 報告は作り話にすぎず、法的根拠も客観的事実の裏付けもない。……それは、主観的・恣意的なものだ。権利と自由の名を借り、国境を接する2国を関係づけ中傷するこのような企みは、いわれのない差し出口にほかならない。」

以上がネパール外務省声明の要点だが、この激しい怒りには、同情の余地が十二分にあるとってよいだろう。前回も指摘したように、チベット難民問題は、ネパール政府が一手に引き受けるには、荷が重すぎる。そのことへの理解と同情が、HRW や、長文の同趣旨後追い記事を掲載したニューヨークタイムズ(4月1日付)には欠けている。

米国本拠のHRW やニューヨークタイムズが、人権を大上段に振りかざしネパール政府を非難するなら、それに見合うだけのカネを出すべきだ。カネも出さずに、カネを出す中国に抵抗せよとは虫が良すぎる。

チベット難民問題は、繰り返すが、ネパールの、というよりは、むしろ米欧や国際社会の問題だ。その自覚なくして一方的にネパール非難をしてみても、問題解決にはならない。むしろ逆に、ネパールを中国側に接近させ、事態を悪化させるだけだろう。

谷川昌幸(C)

2014/04/04 at 19:36 カテゴリー: [外交](#), [中国](#), [人権](#) タグ: [チベット難民](#), [Human Rights Watch](#)

## HRW 報告書「中国の影の下で: ネパールにおけるチベット人虐待」

「HRW(人権監視)」が報告書「中国の影の下で: ネパールにおけるチベット人虐待」を発表した。100頁余の大冊。HRW ニュースの要約紹介によれば、ネパールのチベット人の境遇は下記の通り

(<https://www.hrw.org/news/2014/04/01/nepal-increased-pressure-china-threatens-tibetans>)。

・政治デモは、事実上、禁止。



- ・チベットの文化や宗教の促進は、厳しく制限。
- ・治安部隊による人権の日常的侵害。恣意的拘禁，拘禁中の虐待，威嚇的監視など。
- ・中国・ネパール治安関係諸協定の締結により，監視・取り締まり強化。
- ・中国・ネパール国境警備協力にもとづく，国際法違反のチベット人強制送還。
- ・チベット人の約半数に身分証明書発行なし。生活全般に大きな困難。

#### ▼HRW の勧告

##### ネパール政府がなすべきこと：

チベット人の中国強制送還をやめ，「追放・送還禁止(Non-refoulement)」国際法を遵守すること。有資格チベット人全員に難民身分証を直ちに発行すること。

##### 中国政府がなすべきこと：

正式文書なしに国境を越えたか，もしくは越えようとしたことを理由として逮捕したチベット人に対する恣意的な拘束，拷問あるいは他の不適切な処遇を，直ちにやめること。ネパール政府に圧力をかけ，国際人権法や難民法に反する政策をとらせることをやめること。

チベット難民問題は，小国ネパールの手に余る難問といっても決して過言ではない。どのような条件が整えば，ネパール政府はHRW 勧告を実行することができるのか？ ネパールの，というよりは，むしろ米欧や国際社会の，覚悟のほどが問われている。



谷川昌幸(C)

2014/04/03 at 20:06 カテゴリー: [外交](#), [民族](#), [人権](#) タグ: [チベット難民](#), [HRW](#)